

第2節 小串構内の立会調査

医学部附属病院東駐車場改修に伴う立会調査

調査地区 小串構内

調査期間 昭和62年9月7日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 約6㎡

調査結果 本構内での駐車場の確保のため、アスファルト舗装、雨水管・集水桝の埋設、縁石の設置等の整備が計画された。整備地域は小串構内の北東部に位置し、昭和58年度に旧石器時代および室町時代の遺物が出土した、体育館敷地部分の西に隣接している。遺物は耕作土、床土およびその下位の青黄灰色ないし青灰色粘土から出土したが、出土状況から、両層は二次堆積層であると考えられた。青黄灰色粘土は現地表面から約100~120cm下位に堆積している。

調査は掘削深度の最も深い集水桝について、20ヶ所の設置地域のうち6ヶ所を選定して、土層の堆積状況、遺物の有無を確かめた。掘削は現地表面から80~100cmである。第4地点を除いてすべて、構内造成に伴う埋め土で、工事基底面には耕作土が認められた。第4地点は集水桝と同時に水銀灯の設置も計画され、現地表面から140cm掘削した。

その結果、約100cm下位で層厚約30cmの耕作土が認められ、その下は緑灰色砂質土（Hue 5 G 5/1）が厚さ約10cm以上堆積していた。各地点とも出土遺物はない。なお、調査地域の北方には、北東から南西にのびる低丘陵が間近に迫っており、丘陵裾部の検出が、期待されたが、今回の調査では確認できなかった。



Fig. 62 調査区位置図

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新営に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年）。